

## 目次

- 2 **巻頭エッセイ**  
中国語雑感
- 4 **飲水思源——中国語教育の開拓者⑤**  
坂本一郎先生(1)
- 6 **中国文学作品を読む**  
葉聖陶童話〈古代英雄的石像〉を読む(2)
- 8 **看图学成语**  
絵で見る成語(2)
- 10 **文法のポイント 第11回**  
“比”構文
- 12 **翻訳添削**  
どこがおかしい?なぜおかしい?  
——「日文中訳添削講座」から(8)
- 14 **新しいことばと古いことば**  
新しい造語から中国社会の変化を窺う
- 15 **学習者の声**  
中国語検定試験への挑戦  
明星大学第1回学長杯スピーチコンテストで優勝して

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断複製、複写(コピー)、転載を禁じます。

## 中国語雑感

日本中国語検定協会理事・北海道文教大学 黒坂満輝

異文化を理解し、異文化の人々とスムーズな友好交流を進めるためには、何よりもことばの習得が欠かせません。日本と中国は漢字を使っているのです、今でも漢字で示せばコミュニケーションができると思込んでいる人が多くいるように見えます。たしかに、100%ではないにしても筆談によってある程度の意思を伝えることができると言えばできますが、はたしてそうでしょうか。

極端な例を挙げてみます。ここに頑固で融通のきかない「舅・姑」がいたとします。ある人が中国人の友だちに日ごろの愚痴を聞いてもらおうと、できる限りの漢字を使って、「家の御祖父さんと御祖母さんは石頭で困るんですよ。全く聞く耳を持たないんだから…」と、筆談で日ごろの憤懣をぶちあげたとします。これを漢字だけを取りだして並べてみると、「家、御祖父、御祖母、石頭、困、全、耳、持、無」となります。漢字だけ並べてもまったく意味が通じないのですが、これを見せられた中国の方はどう反応するでしょうか。想像してみてください。簡体字でなくても、この程度の漢字であれば読むことはできますが、理解に苦しむのは目に見えています。しかし、たとえ意味が通じなくとも、情を重んじる中国の方は、相手の様子を察して、ニコニコと微笑み、精一杯理解したようなそぶりを示してくれるかもしれません。

極端な例を挙げたのも、日本と中国とは「同文同種」ではないことを知り、そのような身近な違いから相手の異文化を理解しよう、中国語を学習してみようとする人が、1人でも多く生まれることを期待するからです。もちろん中国語ができなければ、漢字の羅列によって意思を伝達するのも仕方のないことですし、同じルーツの漢字を使用する民族として、たとえ簡体字でなくても漢字で意思を伝えようとする意欲、その積極性は大事にしたいものです。

そうは言っても、さらにスムーズな交流を展開するためには、やはり正しいことばの習得が大切です。そういう私は、中国語の学習についても、専門的なことを言う立場ではないのです。実は、私は正式に中国語を勉強したことがありません。大学でも第1外国語は英語、第2外国語はドイツ語でした。そんな私が中国語を学ぶようになった経緯をお話したいと思います。

私は間もなく古希を迎える“老头儿”です。あまり知られていないのですが、そんな私の世代でも、大学入試で外国語として「中国語」を選択できる大学がありました。東京外大、大阪外大、神戸外大などの外国語大学系のほかに、東京大学、東京教育大学、明治学院大学、大阪市立大学、九州大学など十数校の全国の大学です。私は、いわゆる「引揚者」で、中学校3年生の時から日本の教育を受けたのですが、それまで英語はまったく学んだことがありませんでした。でも、高校受験で英語は

必要ですし、当時ほとんどの大学入試の外国語は英語です。そんな時、私は中国語で大学を受けようと考えてようになりました。こんなことを言うと、とても先見の目で格好良く聞こえますが、それはまったく違って、本心は英語の苦しみから逃れるためだったのです。今のように高等学校でも中国語を勉強できる時代ではありません。そこで、独学で中国語を勉強するという「苦肉の策」をとらざるを得なかったのです。

中国を敵対視していた当時の環境は中国語が勉強できるようなものではありませんでした。書店に行きましても、中国語の参考書など見当たりません。語学の学習に辞書は欠かせませんが、辞書は井上翠の『ポケット中国語辞典』（江南書院刊）だけでした。NHKの中国語講座もまだありませんでした。『中国語』という雑誌が出版されていましたので、それと黒竜江省から流れてくる中国の放送局“中央人民广播电台”の放送を聴いて勉強をはじめたのです。高校2年の2学期のことです。某大学を受験して失敗するのですが、中国語だけは思いのほか良い点数が取れたのです。学習ツールがなかったので、同じ辞書と参考書を使って反復学習するしか方法がありませんでした。読み物や解説などは雑誌『中国語』で吸収し、雑誌と受験参考書『中国語入試問題と解答』（大塚恒雄編著 邦光書房）で何度も問題を解き、辞書を読んで鍛えました。それが無理なく実力をつけることができた要因かもしれません。

1つ言えることは、何事を成し遂げるにも適度の逆境とハングリー精神が大切だということです。今のように恵まれ過ぎると、ハングリー精神も失われがちです。だからこそ、時にはあえてハングリーになることも必要ではないでしょうか。私が中国語学習に志した時とは違い、今はたとえ独学でも恵まれた環境があります。中国語や中国事情に関するあふれんばかりの図書と視聴覚教材、何よりも中国語教育法の進展など、中国語学習の環境と条件の変化は隔世の感があります。

しかし、独学では自分の実力がどの程度であるのか分かりません。そんな時、「中国語検定試験」は学習の成果をはかる有効なバロメーターの1つだと思います。よく「どうすれば何級に合格できるのですか」と聞かれますが、答に窮してしまいます。秘訣があるなら私の方が教えてもらいたいぐらいです。しかし、独学に限らずやはり「暗記、根気、年期」が実力向上のカギであることに間違いはありません。

学問に王道はない。

学問の険しい小路を倦まずよじのぼることを恐れない人だけが、その輝かしい頂上に到達することができる。(マルクス)

まさに名言ですね。「中国語検定試験」合格への道にも王道はありません。「暗・根・年」の「サン・キ」と熱意をもって、さまざまな辞書を読み、より多くの難易さまざまな問題を解き、より長い時間を費やして培われた蓄積が、すばらしい結果をもたらすものだと思います。学習のプロセスが大切ですが、やはり結果が伴わないのでは虚しさだけが残ってしまいます。「何級合格」という目標があります。

今日もまた、1歩1歩倦まずたゆまず頂上を目指していただきたい。

## 坂本一郎先生(1)

日本中国語検定協会理事・神戸市外国語大学 佐藤晴彦

坂本一郎先生との出会いは、私の一生を決定づけたと言って過言ではないと思う。それくらい、私にとって坂本先生の存在は大きいものだった。坂本先生のことを書くとなると、どうしても私事にわたることに触れなければならない。その点、ご寛恕願いたい。先生との出会いは、1964年4月、私が神戸市外国語大学の中国学科に入学した時に始まる。

○**出会い** 入学して初めての授業。坂本先生が教室に入ってこれ、黒板に大きく“我是坂本。”と書かれたのを、何故か今でも鮮明に覚えている。恐らく、その時は、むろん中国語の発音が分かるはずもなかったから、「われ、これ、さかもと」と読んだのだろうと思うが、意味は理解できた。その時、先生は「何故、意味が分かるのだろう？」という質問をされたように思う。漢字で表記されているため、中国語は理解しやすいということをお示しになりたかったのだろう。

○**入学した頃** 入学してすぐに、神戸外大中国学科の伝統であった、「発音の朝練」の洗礼を受けることとなった。神戸外大は当時も月水金の1、2時限目に専攻中国語が配されていたので、坂本先生が8時30分から発音練習をしてくださる。火木土は、先輩が来て指導してくれる。2年生の先輩なら、経験は僅か1年だ。それでも「上手だなあ」と思え、何より、「先輩だ」というだけで、随分年上に見えたから不思議だ。

○**発音練習** 発音練習では、先生が考案された『会話入門』というガリ版刷りのプリントを使っていた。このプリントは今見ても非常によくできていると思う。1ページの左半分はピンインで、1声から4声まで声調の練習をし、右半分はその声母を含む単語が4つ並んでいる。縦に見ていくと、“b, p, m, f”の順に配列してある。“b, p, m, f”が終わると、“zhào/jiào” “shǎo/xiǎo”とか“qún/qióng/chún/chóng/chéng/chén/qián/qiáng”のような近似音が並べてあり、徹底して近似音の弁別を訓練する。そうした基礎的発音が終わると、ようやく短い会話文が出てくる。60年代前半ということもあったからであろうか、“您贵姓？/敝姓陈。”“您府上在哪儿？/舍下在三官住。”という、今では古すぎると思われる表現も、その時に覚えた。

○**『中文会話教科書』** 1年生の時に坂本先生が使われた教科書は、その年に愛知大学から出版された『中文会話教科書』という本だった。ただ出版が少し遅くなり、4月に間に合わず、急遽愛知大学が準備したプリントを使っていた。当時も「難しい教科書やなあ」と思いながら勉強したが、自分が研究の道に進み、「北京語とはどういうものか」ということが臆げながら分かってきた頃、この教科書を引っ張り出して見て驚いた。正に北京語そのものの教科書だったのだ。例えば、“解那么一

直下去就是。”の“解”などという介詞が出現するのである。しかも各課のタイトルはすべて“搭车问道”，“宾至如归”といった四字句で，実に気が利いた教科書であったと思う。

○年賀状 1年生の12月，先生に年賀状を書いた。それまでに習った中国語をかき集め，何とか中国語で書いた。坂本先生には「中国語で書かねばならない」と思い込んでいたためだろう。明けて65年の正月，新年初めての授業で，坂本先生，なんと私が出した年賀状に朱で添削して返してくれたのである。これには驚いた。と，同時に「教育者かくあるべし」という無言の教えをしていただいた感があった。

○坂本一郎伝説 私が神戸外大に入学した頃には，坂本先生はすでに一種伝説化された面をおもちであった。

その1 発音ができない学生の口に手を

その昔，そり舌音ができない学生がいると，「君の舌はどうなっているんだ！」と言って，その学生の口に手を入れてきたという。今なら，間違いなく「暴力教師」のレッテルが貼られただろう。

その2 北京の東西南北の音の違いを聞き分ける

先生は北京の東西南北の微妙な音の違いも聞き分けることができ，「ああ，この人は北京の南の人」という判断がおできになったという伝説もあった。ふつうの人間なら「そんな馬鹿な」と一笑に付されそうであるが，「坂本先生ならできるかも」と思わせるところが凄い。

その3 “叩头”のお手本

中国の伝統的な挨拶の方法として，頭を地に着けて礼をする“叩头”というお辞儀の仕方がある。ある授業の時，坂本先生は，“叩头”というお辞儀はこうするのです”と言うやご自分の額をゴツンと机にぶつけられたようだ。ために先生の額は，その衝撃で真っ赤になっていたとか。

○“听写” 3年生の時だったと思う。先生の「中国語学特殊講義」を選択した。授業は，その日，先生が読まれた《人民日报》から，レベル，内容として適当と思われる記事を切り取られ，教室で音読される，それを受講生がそのまま“听写”するという内容であった。3年生とはいえ，丸2年習ったばかり，新聞記事をそのまま“听写”するのはそう簡単なことではなかった。特に4月の授業開始早々は，難しかった。それでも必ず当てられるから，ひやひやししながら受けていた。で，一言，“不明白。”と言おうものなら，身を乗り出してこられ，“不明白吗？”と，落胆とも何とも言えない表情をされる。それが辛くて，「坂本先生にああいう表情をさせてはいけない」と思い，必死になって勉強した。ともかく耳を慣らさねばと思い，短波放送を受信するのに優れたSonyのラジオを購入し，“中央人民广播电台”の放送を録音し，片っ端から“听写”していった。初めは書ける部分の方が少なく，悲惨な状態だった。しかし，3ヶ月，半年続けていくうち書けない部分が少なくなっていく，1年経った頃には，1，2箇所書けない所が残るというくらいになった。これには自信がついた。

## 葉聖陶童話〈古代英雄的石像〉を読む（2）

共立女子大学(非) 赤坂綾

1929年に執筆された〈古代英雄的の石像〉は、葉聖陶童話の代表作で、童話集のタイトルにもなっています。教育者であり編集者でもある葉聖陶は、普通話を普及させる立場から、1956年《叶圣陶童話選》（『葉聖陶童話選』）を出版するにあたり、方言や文語的な語彙を普通話に改めるために、旧作に対し大がかりかつ細やかな書き換えを行いました。普通話の普及に力を注ぎ、今日の言語教育界に多大なる影響を与えた人物だと言えます。今回、皆さんにご紹介しているのは書き換え後の作品です。

今回は英雄の石像が作り上げられていく様子をご紹介しました。今回は石像が民衆に崇拜されるにつれ次第に傲慢になっていき、もとは1つのかたまりであり今は台座となっている仲間の小石を見下す場面から見ていきましょう。

骄傲的毛病谁都容易犯，除非圣人或傻子。那块被雕成英雄像的石头既不是圣人，又不是傻子，只是一块石头，看见人们这样尊敬他，当然就禁不住要骄傲了。

“看我多荣耀！我有特殊的地位，站得比一切都高。所有的市民都在下面给我鞠躬行礼。我知道他们都是诚心诚意的。这种荣耀最难得，没有一个神圣仙佛能够比得上！”（中略）

“喂，在上面的朋友，你让什么东西给迷住心了？你忘了从前！”台子角上的一块小石头慢吞吞地说，像是想叫醒喝醉的人，个个字都说得清楚，着实。

“从前怎么样？”上面那石头觉得出乎意料，但是不肯放弃傲慢的气派。

“从前你不是跟我们混在一起吗？也没有你，也没有我们，咱们是一整块。”

“不错，从前咱们是一整块。但是，经过雕刻家的手，咱们分开了。钢凿一下一下地凿，刀子一下一下地刻，你们都掉下去了。独有我，成了光荣尊贵的、受全体市民崇拜的雕像。我高高在上是应当的。难道你们想跟我平等吗？如果你们想跟我平等，就先得叫地跟天平等！”（中略）

“现在你其实也并没跟我们分开。咱们还是一整块，不过改了个样式。你看，从你的头顶到我们最下层，不是粘在一起吗？并且，正因为改成现在的样式，你的地位倒不安稳了。你在我们身上站着，只要我们一摇动，你就不能高高地……”

“除了你们，世间就没有石块了吗？”

“用不着费心再找别的石块了！那时候就没有你了，一跤摔下去，碎成千块万块，跟我们毫无分别。”

〈訳文〉「うぬぼれ」という悪い癖は、聖人やまぬげでない限り、誰にでも出やすいものです。英雄の像に彫り上げられたあの石は、聖人でもなければまぬげでもなく、ただのひとかたまりの石にすぎないので、人々がこのように自分を尊敬する



のを見て、当然うぬぼれずにはいられませんでした。

「なんとわたしの誉れ高きことよ！わたしには特別な地位がある、あらゆるものよりも高い所に立っている。市民全員が下のほうでわたしに立礼をしている。かれらがみな誠心誠意でそうしていることをわたしは知っている。このような榮譽は最も得がたく、神や聖人や仙人や仏だっってわたしにはかなわないのだ！」(中略)

「おい、上にいる友よ。おまえは何に惑わされているのかい？昔を忘れたのかね！」台座の角の小石がゆっくりと言いました、酒に酔った人を呼び覚ますように、一言一言ははっきりと、心を込めて。

「昔がどうだっって？」上の石は小石にそのように言われるとは予想外であると思いましたが、傲慢な態度を捨てようとはしませんでした。

「以前、おまえはわたしたちと一緒にだっただけではないか。おまえもいなければ、わたしたちもいない、われわれは1つのかたまりなのだよ。」

「なるほど、確かに昔われわれは1つのかたまりであった。しかし、彫刻家の手によって、われわれは離れ離れになったのだ。鋼鉄のみで少しずつ切り出され、ナイフで少しずつ彫られ、おまえたちは削り落とされたのだ。わたしだけが高貴で尊い、すべての市民に崇拜される彫像となったのである。わたしが高い所にいるのは極めて当然のことだ。まさかおまえたちはわたしと平等だと思っているわけではあるまい。わたしと平等でありたいと思うのであれば、まず地と天を平等にしなければならぬ！」(中略)

「今もおまえはわたしたちとは決して離れ離れになっているわけではない。われわれはやはり1つのかたまりなのだ、形が変わっただけにすぎないのだ。ほら、おまえの頭のてっぺんからわたしたちの1番下の段まで、いっしょにくっついているではないか。それに、現在の形に変わってしまったために、かえっておまえの地位は不安定になってしまった。おまえはわたしたちの体の上に立っているのだ、わたしたちがちよっと動いただけで、おまえは高々と立っていることができなく……」

「おまえたちの他に、世の中に石はないとでも言うのか？」

「また別の石を捜そうなんて気を使うにはおよばないよ。その時は、おまえもいなくなってしまうのだ、いったん倒れれば、ばらばらに砕け、わたしたちと全く見分けがつかなくなるのだから。」

※葉聖陶(1894-1988):本名は葉紹鈞、江蘇省蘇州市生まれ。小学校教師の傍ら小説を書き始める。童話集《稻草人》《古代英雄的石像》、小説集《隔膜》《火災》、長編小説《倪煥之》を世に送り出す。教育者、編集者としても知られ、更に革命後は中央人民政府出版総署の副署長等の要職を歴任し、今日の普通話の普及に尽力した。

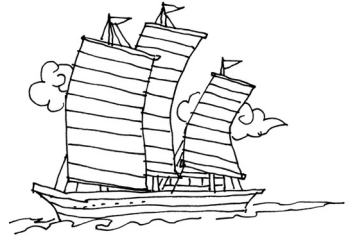
## 絵で見る成语（2）

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



趁热打铁 chèn rè dǎ tiě  
熱いうちに鉄を打つ。好機を逸することなく事を行う。



乘风破浪 chéng fēng pò làng  
（遠大な志を懐き、困難を恐れず）  
勢いよく前進する。



痴心梦想 chī xīn mèng xiǎng  
実現不可能なことを考える。たわけたことを考える。



东施效顰 Dōngshī xiào pīn  
（美女の西施の眉をひそめた顔が美しかったのを見て）醜女の東施がしかめつらをまねる。いたずらに人のまねをして物笑いになる。



对牛弹琴 duì niú tán qín  
牛に向かって琴を弾く。愚か者に対して高遠な理想を説く。



丢盔卸甲 diū kuī xiè jiǎ  
かぶともよろいも脱ぎ捨てる。あわてふためいて逃げるさま。

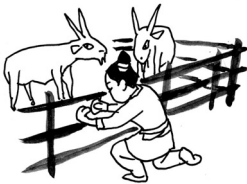




画饼充饥 huà bǐng chōng jī  
絵にかいた餅で飢えをしのごうとする。空想で自己を慰めようとする。



刻舟求剑 kè zhōu qiú jiàn  
船に刻して剣を求む。時勢の変化を知らず旧習を守るたとえ。刻舟。



亡羊补牢 wáng yáng bǔ láo  
羊に逃げられて檻の修理をする。事故や損失の再発に備える。



掩耳盗铃 yǎn ěr dào líng  
耳をふさいで鈴を盗む。自分で自分をごまかす。



一枕黄粱 yì zhěn huáng liáng  
黄粱（こうりょう）一炊の夢。粟飯を炊き上げるほどの短い時間の夢。一場のはかない夢や理想。“黄粱美梦”（huáng liáng měi mèng），“黄粱梦”（huáng liáng mèng）とも。



愚公移山 Yúgōng yí shān  
愚公山を移す。たゆまぬ努力を続ければ、どんな難事でも実現するということのたとえ。

## “比” 構文

日本中国語検定協会理事・神戸市外国語大学 佐藤晴彦

今回は比較を表す“比”構文についてお話ししましょう。“比”構文は基本的に必要な語順になります。

### 基本型

A + “比” + B + 形容詞

このうち、Aは比較項目（比較することがら）、Bは被比較項目（比較されることがら）のことです。例えば、

(1) 他 比 我 高。(彼は僕より背が高い。)

比較項目 + “比” + 被比較項目 + 形容詞

### 一緒に使われる副詞：“还”“更”など

“比”は「～より」という意味を表しますから、「もっと」とか「さらに」という意味を表す“还”“更”などがこの構文でよく使われることになり、副詞ですから、ふつう形容詞の前におかれます。

(2) 今天的雨比昨天还大。(今日は雨脚が昨日よりもっと強い。)

(3) 今天的雨比昨天更大。(今日は雨脚が昨日よりさらに強い。)

“还”と“更”ではニュアンスが少し異なりますが、日本語でその違いを訳し分けるのはちょっと難しいですね。(2)、(3)ともに「“昨天”も雨脚が少し強かった」ということを前提としていますが、“还”の方は、「その強かった昨日よりもっと」という、話者の驚き、意外だというニュアンスがありますが、“更”にはそういう話者の感情はこめられておらず、客観的な判断を示していると言えます。

### 一緒に使われる“要”

“还”“更”以外に、“要”も比較で用いられることが多いですね。“要”は比較した結果、こういう趨勢にあるという判断を示しています。ただ、“还”“更”とは使われ方がちょっと違います。大きな違いは“要”なら“比”の前におけるという点です。

(4) 今天的雨要比昨天大。

“要”はこういう位置に使えるのですが、“还”“更”であれば、

×(2) 今天的雨还比昨天大。

×(3) 今天的雨更比昨天大。

というようには言えません。さらに“要”は“还”の後に使うこともできます。例えば(2)の例文であれば、“要”を使って、

(2) 今天的雨比昨天还要大。

と言えます。では“要”がある場合とない場合でどう違うのかというのはネイティブによっても語感が異なるようです。“要”が判断を示すため、“还”のみを使った

時の話者の驚き, 意外性というニュアンスはなくなると感じる人もいれば, 逆に“**还**”だけの場合と同じだと感じる人もあり, デリケートな問題のようです。

### 比較の差

比較した場合, その結果として両者に差が存在し, その差を具体的に表現したいという状況もあるでしょう。そういう差を表す語は, 形容詞の後におかれます。上で挙げました基本型の後に差を表す語がきますから,

(5) 他 比 我 高 三公分。(彼は僕より3センチ背が高い。)

A + “比” + B + 形容詞 + 差 という語順になるわけです。

### “一点儿”“得多”など

比較した結果の差は, 常に具体的数字で表すとは限らず, 「少し」とか「ずっと」とかで表現したい場合もあります。そうした場合も文の位置としては, やはり形容詞の後に“**一点儿**”や“**多了**”、“**得多**”を使えばいいわけです。

(6) 东京的冬天比大阪冷**一点儿**。(東京の冬は大阪より少し寒い。)

(7) 今年的冬天比去年冷**得多**。(今年の冬は去年よりずっと寒い。)

(8) 北京的冬天比东京冷**多了**。(北京の冬は東京よりずっと寒い。)

(9) 他跑得比我快**多了**。(彼は走るのが僕よりずっと速い。)

### 否定文は“没有”で

“比”構文の否定には, “**没有**”を使って, 次のように言います。

(10) 他 没有 我 (这么) 高。(彼は私ほど背が高くない。)

A + “没有” + B + (这么/那么) + 形容詞

“**这么/那么**”は「~のように」という意味を表し, “**这么**”が選択されるか“**那么**”が選択されるかは, Bと発話者の関係で決まります。

### “不比”とは言わないか?

ネイティブによっては, “**不比**”なんて使わない」という人もいますが, “**不比**”を使った次のような言い方が全くないというわけではありません。

他不比我高。(彼は私より背が高いというわけではない。)

ある辞書では,

(11) 他没有我高。: 彼は私より背が低い

(12) 他不比我高。: 彼は私とほとんど同じ

という説明をしています。なぜそうなるのでしょうか? 両者の違いを理解するには, 肯定がどうなっているかを理解すると分かりやすいのです。両者の肯定は, それぞれ

(11) 他有我那么高。(彼は僕くらいの背の高さだ。) (A) (11)′ (12)′

(12)′ 他比我高。(彼は僕より背が高い。) 我 ————— 他 ↑ 我 ————— 他 ↑

となります。図で示しますと, 右の(A)のようになります。

これを否定するわけですから, 図は次の(B)のようになります。

(B) (11) (12) 他 ↓  
我 ————— 我 —————  
他 ↓ 他 ↓

## どこがおかしい？なぜおかしい？

——「日文中訳添削講座」から（8）

中国・華東師範大学 高寧

日本中国語検定協会主催の実力養成通信添削講座で、日文中訳問題の添削を担当されている高寧先生の解説と講評をご紹介します。この講座では、3級、2級の各挑戦コースの他に、今年から上級コースも新設されています。（文責：高部）

### (31) 自分で使ってみて、はじめて品物のよしあしがわかる。

この文では主として類義語の使い分けの問題が目立ちます。まず、「品物」についてです。「物品」や「产品」といった訳が多いようですが、生活用語としては、ちょっと不自然な気がします。というのは、「物品」は集合名詞で、抽象的に品物を指す場合が多いからです。「产品」は「物品」より受け入れやすいですが、やや工業製品のイメージが付きまとっているのではないかと思います。次は「よしあし」です。「善悪」や「好歹」というような訳語が見られました。しかし、そのいずれも人間のことについていう言葉ですから、品物に対する評価には用いることができません。3つ目は「わかる」の訳し方で、「辨别」という訳語が出てきました。いけないこともありませんが、ちょっとおおげさなのではないかと思えます。

《参考訳文》 亲自用用，才明白东西的好坏。  
用过了了解东西（产品）的质量。  
自己不用，不知道东西的好坏。

### (32) どんなに財産があろうと、わたしはあんな男と結婚したくない。

“结婚”を他動詞として使った訳が多数ありました。“无论有多少财产，我也不结婚那样的男人”のような訳は，“结婚”を“嫁给”に改めるか，“无论有多少财产，我也不想和(跟)那样的男人结婚”に直さなければなりません。“结婚”はそれ自体が動詞＋目的語構造の単語ですから、直接に目的語をとることはできません。

また、注意していただきたいのが言葉の組み立てです。「どんなに財産があろうと」を中国語に訳すには2種類の方法があります。1つは、“不管他有多少财产”で、「動詞＋数詞」の構造です。もう1つは、“不管他多么有财产”で、「副詞＋動詞」の構造です。両者を混同させては、誤訳になります。“不管有怎么财产”や“不管他有多么钱”のような訳し方は、いずれも言葉の組み立てが間違っています。

最後に指摘しておきたいのは、「あんな男」の訳し方です。やはり言葉の組み立てです。“那样”を使った場合は、その次に“的”をつけて“那样的男人”としなければなりません。“那种”ですと、直接“男人”を修飾して“那种男人”になります。“那么”は副詞的に働く代詞で、名詞を修飾することができませんので、ここでは使えません。

《参考訳文》 不论他多有钱，我也不想和这种男人结婚。  
再是大款，我也不要跟这样的男人结婚。  
他有多少财产，我也不想嫁给他这种人。

(33) きのう夜更かししたので、きょうは眠くてしょうがない。

「夜更かしする」は“睡得很晚”ではなく、“熬夜”か“开夜车”の意味です。“睡得很晚”は、ただ遅くまで起きていたというだけですが、“熬夜”は一睡もしないという意味です。“熬夜”と比べて、“开夜车”のほうは「徹夜で仕事をする」語気がもっと強いと思います。もちろん“开夜车”は、あくまでも比喩的な言い方で、深夜にドライブをするわけではありません。ただし、これは昔マイカーが無かった時代の言い回しで、今は深夜のドライブも可能になりましたから、“昨天我开夜车，今天困得不得了”と訳したのでは、「夜通し車を運転していたから、きょうは眠くてしょうがない」という意味に読み取られる可能性も出てきます。ですから、この場合、“开夜车”に引用符号をつけたほうが良いと思います。

《参考訳文》 因为昨天熬夜，所以今天困得不得了。  
因为昨天“开夜车”，今天困得不行。  
昨天熬夜，今天困死我了。

(34) 中国語は習ったことがあるが、難しい会話はできない。

「難しい会話はできない」の訳として、一番よく見られたのが“不会说难的会话”です。その他、“难的话不会说”も多いようです。しかし、言葉の組み立ての点から考えますと、“说…会话”は成り立ちません。“说”を除いて“不会难的会话”にしますと、意味的には通じるようになりますが、中国語としてはやはり落ち着きません。というのは、中国語には2音節の言葉が圧倒的に多いので、単に“难的话”としますと、不自然で物足りないような気がするからです。“不会很难的会话”“不会较难的会话”“不会有难度的会话”などにしますと、違和感がなくなります。ただ厳しく言いますと、これらの表現はいずれも学校でしか通用しない言い方で、社会人には学生口調の言い方に聞こえるでしょう。“不会…会话”という言い方にはぎこちなさがあり、社会人の日常生活には出てこないからです。“会话”よりも“交谈”のほうが多く使われるでしょう。ですから「難しい会話はできない」の自然な訳し方は、なんとと言っても“不会（进行）复杂的交谈”だと思います。

他に“难的话不会说”という訳がありましたが、これは原文とは意味的にずいぶん違います。“难的话”と言いますと、「会话」や「用談」の内容についてではなく、言葉・文そのものを指すことになり、「難しい単語やセンテンスは口から出せない」という意味になります。

《参考訳文》 虽然学过汉语，但是不会（进行）复杂的交谈。  
汉语虽然学过，但是复杂的交谈还不会。  
中文学是学过，可是不能进行难一点的交谈。

## 新しい造語から中国社会の変化を窺う

共立女子大学 李鍾強

科学技術革新を含む社会生活の急激な変化は、情報を伝達するシステムとしての言語に必ずや影響を与える。1990年代に入ってから、中国は消費生活の向上に伴い庶民の間で常に新鮮な言い方で新しい出来事を表現するようになった。新しい造語の登場から、社会の変化を窺い知ることもできるであろう。

コンピューターを意味する“**计算机**”はそもそも新語ではなかった。70年代までは大衆と無関係な科学用語として使われていたが、80年代になると会社のシステム管理や技術開発で広く使用されるようになり、さらに大型の専用機器というイメージの“**计算机**”に替わり“**微机**”という新語が使われ始めた。そして、80年代後半からこの“**微机**”が個人用として普及するとともに、職場の機器というイメージが強かった“**微机**”は家庭用の電気製品として“**台式电脑**”（デスクトップパソコン）に替わった。さらに、90年代になり、“**电脑**”が小型で携帯に便利なものに進化すると同時に、“**笔记本电脑**”（ノートパソコン）が主流となった。情報化時代といわれる21世紀に入ると、“**笔记本电脑**”の普及により、中国のインターネット利用者は2009年3月末に3億人の大台を突破し、米国を超え世界一となっている。

携帯電話が中国で使用され始めた1980年代後半には“**移动电话**”“**手提电话**”“**无绳电话**”“**无线电话**”などの名称が乱用される時期があった。もちろんどれも固定電話と対比して移動式であることを強調する語であった。一方、ほぼ同じ時期に“**大哥大**”という台湾生まれの語があった。この“**大哥大**”は今の携帯電話よりかなりかさばったものであったが、高価なもので、金持ちの新しいステータスシンボルとして片手に持つと“**大哥**”（マフィアのボス）のように格好良いという意味であり、台湾・香港で流行った。そして80年代末、大陸中国で携帯電話の増加とともに“**大哥大**”という語も改革開放の窓口である“**经济特区**”から流れ込み、内陸へ急速に普及していった。しかし90年代に入ってから、小型化が進む携帯電話を指す語は、“**大哥大**”より精巧で、手にフィットする語感を表す“**手机**”に替わった。今年3月末の時点で、“**手机**”の利用者は延べ6億7000万人にも達している。

新しい造語が大量発生したこの20年来、マスコミによって“**大哥大**”のような穏やかでない語まで広く普及するようになっても、以前のように政府が規制することができなくなったのも注目すべき点である。カラOK（カラオケ）という日本語からの新語を例にすると、これは外来語の造語方式の伝統からみれば、まっとうな作り方ではないため、定着が難しいのではという声が強かった。1996年に専門家が《人民日报》で“カラOK”という訳語について強く批判した上、代わりに“**客来讴歌**”“**随乐唱**”“**歌乐**”などの語を提案した。しかし、今、中国のどこの都市でも“カラOK”の看板が目立ち、予想とはまったく違う展開となっている。

中国語検定試験への挑戦

神奈川県相模原市 七十老人 鈴木一男

4000年の歴史をもつと言われる中国に興味があったのは事実だ。

70に近くなって来た、少し、何でもいから学習しようと思いつ。中国語に挑戦する前年、67歳の時だ。何か学習しようと考えたあげく、行政書士試験に挑戦する。挑戦の結果、100点満点の試験で35点、もちろん不合格だ。再度、挑戦をころみようとしたが、70近い老人が憲法を暗記し、憲法第9条をすらすら言えるようになってどうなるのか？もっともっと遊びながら有意義に学習できるものはないのか？自問自答の結果、そうだ！中国語だ！中国語を少し話すことができれば、隣国への「中国旅行」が楽しくできる。

単純な発想だが、中国語検定試験に挑戦することにする。生意気だが、入門の準4級は飛ばして4級に挑戦することにした。4級の最低必要単語600語、リスニング問題、筆記問題と独学で学習を始めた。

楽しみながらの学習。準備期間は約1年。

初めての挑戦は平成19年11月、第63回の試験で、会場は東京都町田市にある桜美林大学だ。

試験開始、まずはリスニング試験が始まった。全然分からない。ちんぷんカンブン、こりゃだめだ！自信を失った、しかし、最後まで頑張った。

結果がリスニング試験100点満点中、たった5点。筆記試験100点満点中34点、合計得点は200点満点中39点だった。全くの完敗だ。

懲りずに、1年後の試験を目指すことにした。勉強方法を変えて3級を目指すことにした。3級を目指して学習すれば、4級は何とかなると思え、4級の学習は試験の1ヶ月前にすることにした。文法をしっかり学習し、他の学習は自由気ままに自分勝手に学習した。

第66回の検定試験は、前回と同じ桜美林大学で受験する。やはり難しい。試験を受けながら、次回に挑戦持ち越しだあ！と考えていた。

帰宅後、家族に「だめだった」と報告した。2、3日過ぎてから、回目の試験のため、ぼつぼつ学習を始めた。

12月8日、試験結果の通知が届いた。開封してビックリ、リスニング試験60点、筆記試験64点で、合格証明書がついている。うれしかった。最低の最下位合格だと思う。まあいいや、合格なんだ。

さて、今年は3級に挑戦するつもりだ。年齢は70を超えるが、夢はボランティアで中国に行って、日本語教師の助手にでもなれたらなあと思っています。

さあ今年も中国語の学習をするぞ！



## 明星大学第1回学長杯スピーチコンテストで優勝して

明星大学4年 大橋慶一

2008年5月12日に四川省で大地震が発生して、はや1年余りが過ぎ去りました。しかし、その爪痕は、今もなお中国の人々の心に深く残っています。

私は3年生の時に、四川省重慶市にある西南大学に短期留学をしました。そこで過ごした時間は、私に大きな希望と喜びを与えてくれました。そして、触れた中国の人々の優しさ、温かな心に、どうしても恩返しをしたい、何か力になりたいと強く思い、多くの方々の協力の下、募金活動を始めました。

2008年9月、明星大学の教職員の方々や周りの方々のすべての方々の真心の込められた募金を携え、再び西南大学を訪れました。現地に着き、この募金を手渡そうとすると、何ということでしょう！西南大学の先生方が私たちのために、素晴らしい募金授与式を行ってくださったのです。真心には真心で応えるという中国の方々の心に、私は感動の連続でした。

そして、この募金活動を通して得た体験をどうしても伝えたい、伝えなければならぬと思います、11月に開催された明星大学第1回学長杯スピーチコンテストに出場しました。その中で、私はまず1人が声を上げること、そして、身近な人に声をかけていけば、善の結びつきは、やがては必ず社会へ広がり、困難は良い方向へと変えていくことができること、そしてそのために必要なのは「勇気」であるということを訴えました。

審査員の先生方の中には西南大学の先生もいらっしゃいました。終了後、「あなたのスピーチにとっても感動しました。感動で涙が出ましたよ。これからも日中友好のためにともに頑張ってください。ありがとうございました」とおっしゃりながら、何度も握手をしてくださいました。私は、思ってもみなかった弁論の部での優勝とともに、何よりも自分の心を伝えられたことに、感謝の思いで一杯になりました。

西南大学での体験、そして、第1回学長杯中国語スピーチコンテストへの挑戦は、いずれも私の素晴らしい思い出になっています。これらの体験を通じ、私は将来、日本と中国の友好交流活動に携わっていきたくと強く思っています。そして、日中友好の平和を結ぶ架け橋となる人材になるよう、更に精進していく決意です。

本欄への投稿を募集しています。中国語に関する事、検定試験に関する事など、400字～1200字程度でお寄せください（Eメール、郵便ともに可）。採用された方には、記念品を進呈いたします。なお、ご投稿いただいた原稿を掲載するにあたり、編集室側で若干の加筆・修正をさせていただく場合がございます。予めご了承ください。